

## 在校生のことば

「平成」から「令和」へと変わり、暦の上では今、令和最初の春を迎えようとしています。春は、新たな出会いをもたらし、私たちに希望を与えてくれる季節です。一方で春は寂しさももたらし、別れを運んでくる季節でもあります。

3年生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。在校生を代表し、心よりお祝い申し上げます。

今先輩方には、3年間の思い出が走馬灯のごとく駆け抜け、これから始まる新しい生活への期待と不安で胸がいっぱいだと思えます。

振り返ってみると、入学したての私たちに微笑みながら声をかけてくださり、どんなときでも私たちの背中を優しく押してくださっていたことに改めて気づきます。そしていつでも私たちの先頭に立ち、さすが3年生と思わせる企画や行動力で率いてくださいました。常に努力を怠らず、全力で取り組むその姿は私たちの憧れです。

先輩方の強さ、厳しさを実感した部活動。どの部も常に高い目標を持ち、不撓不屈の精神で取り組む姿に深く感銘を受けました。お互いに叱咤激励しながらどんどん強くなっていく姿。とても勇ましかったです。

幡羅中がひとつになった体育祭。学校中に響き渡る大きな声から、先輩方の真剣さを感じました。仲間のために、全力を尽くしているその姿。忘れることができません。全学年で取り組んだ組体操やよさこいソーラン。先輩方と共に演技し、成し遂げた達成感を共有できたことの喜びと、幡中生としての誇りを実感したことを昨日のこのように思い出します。

先輩方の迫りに圧倒された音楽会。3年間の集大成であるその歌声には、言葉に表せないほど心に迫るものがありました。一人残らず心奪われ、魂を揺さぶられた学年合唱、「あなたへ」。仲間を信じ、涙を浮かべながら歌うその姿は今でも頭から離れません。これから先も忘れることはないでしょう。

3年生となる今、その背中では憧れではなく、目標となりました。

私たちが幡羅中で過ごしてきた2年間、目の前にはいつでも先輩方の背中がありました。その背中には広く優しく、私たちにとってとても大きな存在でした。しかし、先輩方は今日で本

校を旅立たれます。明日からは私たちが幡羅中の顔となり、先頭に立たなければなりません。中心となる責任感に押し潰されそうになり、正直、不安でいっぱいです。ですが、私たちには信じ合える仲間がいます。仲間と協力しながら、これまで先輩方が築いてきた伝統を受け継ぎ、目標である先輩方に一歩でも近づけるように頑張りますので、安心して見守っててください。

先輩方はこれから、自分自身の将来、夢に向かって“それぞれの道”を歩いていくと思います。しかし絶対に忘れてほしくないことがあります。それは、先輩方の原点は幡羅中だということです。辛いことがあったら、仲間と紡いできた日々を思い出してください。きっとどんなに大きな壁でも乗り越えることができるはずです。

『見事に咲き誇る梅の花のように、一人ひとりが明日への希望とともに、それぞれの花を大きく咲かせることができる日本であってほしい』との願いを込められて名付けられた「令和」。冬の厳しい寒さに耐え、凜とした花を咲かせる梅のように、どんな困難な時でも大輪の花を咲かせること、在校生一同、心より願っております。

最後に、今回このような事態となり、先輩方の晴れ舞台である卒業式に参加できず、とても残念に思います。直接、感謝の気持ちを伝えることはできませんが、先輩方のより一層のご活躍とご健康をお祈りし、送辞と致します。

令和2年3月14日

在校生代表 杉本 遥菜